



闇芸 (いんげい)

谷崎潤一郎の『陰翳礼讃』を読んで、日本家屋の陰に宿る美に魅了された。日本人は闇を単なる暗さではなく、趣として捉える独特の感性を持つ。そこに着目し、私は“闇をつくる芸術”として『闇芸』と名付けた。障子越しに落ちる薄明かりや、床の間に沈む陰が、空間に独特の雰囲気を生み出す。この日本特有の美を、外国の人々にも感じてもらいたい。